

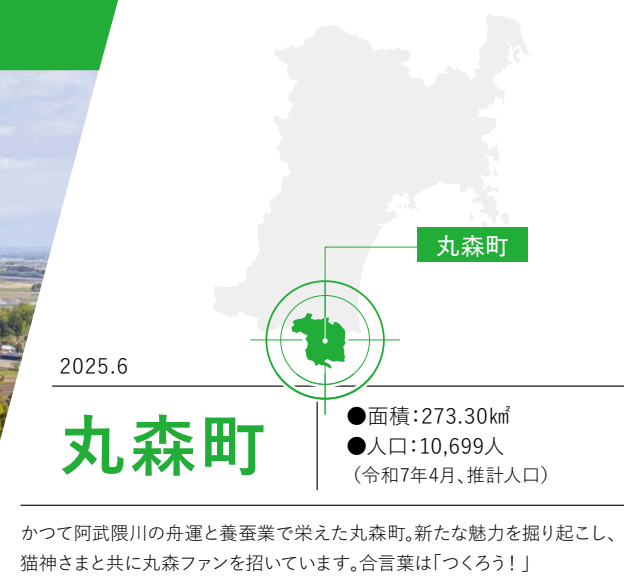


写真: 金山城址からみた角田盆地(筆者撮影)

1 概況 ～水とみどりの輝くまち 丸森町～

宮城県の最南端に位置する丸森町は、東北第二の大河である阿武隈川が町の北西部を貫流する自然豊かな“水とみどりの輝くまち”です。阿武隈川とその支流は、丸森町の豊かな自然や日本の原風景ともいえる未来に残したい景観、風土を創り、恵みをもたらす一方、氾濫を繰り返しています。近年では、令和元年東日本台風(19号)が甚大な被害を及ぼし、町を挙げて復旧・復興に取り組んできました。江戸時代は、阿武隈川舟運の川港として、また養蚕業のまちとして繁栄しました。相馬氏と戦った伊達政宗が初陣戦勝の帰途、この地で故事に因んで命名したとの伝承がある県境の旗巻峠には、戊辰戦争で

仙台藩最後の拠点となった旗巻古戦場跡があります。この地域を治めた金山城(要害)の第17代城主中島信成氏は、戊辰戦争に出陣し、明治維新後には七十七銀行創設者の一人(取締役兼支配人)となっています。

明治22年の町村制施行に伴い丸森村が誕生、明治30年に町制施行し丸森町となり、昭和29年には、金山町・大内村・大張村・耕野村・小斎村・館矢間村・筆甫村との合併を経て、現在の丸森町となりました。「丸森」の由来は、伊達植宗が築き葬られている丸山城(丸森城)の近くに小山があり、往古より丸森と称していたことによると伝えられています^[1]。

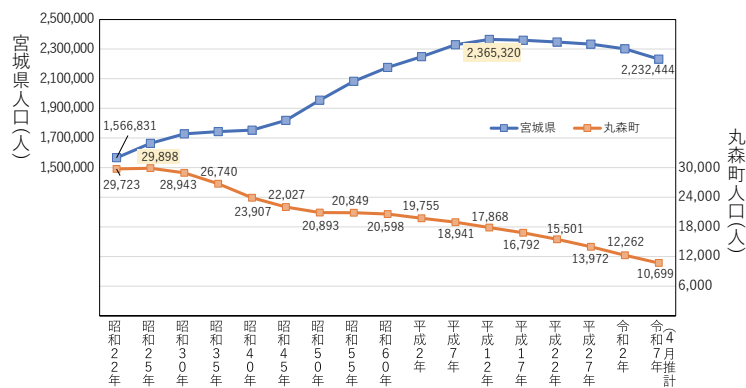
[1] 仙台藩編纂の「封内風土記」による。一方、城付近に丸く盛り上がった山があり、昔からこれを「丸山」と呼んでいた。その後、伊達政宗の曾祖父である植宗により築城された城は丸山城と名付けられ、いつ頃からか「丸森」という地名がおこったとの説もある。

2 基本情報 ～過疎対策、少子高齢化対策に取り組む～

丸森町の面積は、県内9位となる273.30km²です。直近の令和7年4月の推計人口は10,699人となっていますが、合併前の昭和25年頃をピークに減少が続いています。過疎地域として様々な施策を講じてきましたが、社人研(国立社会保障・人口問題研究所)によれば2050年の人口は4,974人^[2](対令和2(2020)年比▲59.4%)に大幅に減少すると推計されています。

丸森町の高齢者(65歳以上)人口比率は43.2%(令和2年国勢調査)と県平均の28.3%を大きく上回り、社人研の推計では2050年にこの比率は

図表1 宮城県と丸森町の人口推移



資料: 総務省統計局「国勢調査報告」、宮城県「宮城県推計人口」

62.1%に達すると推計されています。また、生産年齢(15～64歳)人口比率は、48.1%(同上)と既に半数を切っていますが、2050年にこの比率は33.6%に低下、同じく人数は▲71.4%(令和2年比)もの大幅な減少と推計されています。こうしたことから、丸森町では過疎対策、少子高齢化対策に危機感を持って取り組んできており、「こどもの未来を全力応援!丸森町」をキャッチフレーズに、町内で生まれ育つ子どもたちが、将来に向かって希望を持ち健やかに成長できるよう、心豊かに育つふさとづくりを進めるため、「こども全力応援宣言」を掲げ、結婚対策事業、児童保育料等無料化、子ども医療費助成、学校給食無償化等、様々な対策に取り組んでいます。

一方、丸森町民の町内での通勤・通学者の比率は53.4%(県内22位)と半数を超えますが、町内事業所への通勤者流入も多い一方、角田市(通勤・通学者流出率15.5%)、仙台市、白石市などへの流出数が角田市(同流入率12.6%)などから丸森町への流入数を上回っていることから、昼夜間人口比率^[3]は93.30(令和2年国勢調査、県内22位)となっています。町民の希望にマッチした町内での魅力的な働く場所の確保が更に必要であることも示しています。

丸森町では、令和7年から令和16年を計画期間とする

[2] 国立社会保障・人口問題研究所(社人研)が2023年12月に公表したデータによる。 [3] 昼夜間人口比率とは、夜間人口100人当たりの昼間人口。
[4] V=Volatility(変動性) U=Uncertainty(不確実性) C=Complexity(複雑性) A=Ambiguity(曖昧性)のこと。

3 産業の状況

(1) 町内総生産 ～製造業、建設業などが牽引～

令和4年度の丸森町の町内総生産額は425億円と、県内35市町村中26位ですが、人口一人当たりでは17位です。産業別(図表2)では、「製造業」が180億円と最も多く、「建設業」56億円、「不動産業」37億円が続きます。

産業別生産額の構成比を宮城県と比較すると、丸森町の構成比が宮城県の構成比を上回るのは「製造業」「建設業」「農業」等ですが、県平均を下回る業種には「卸売・小売業」「専門・科学技術、業務支援サービス業」「運輸・郵便業」等が含まれます。

丸森町の最近11年間の町内総生産額(図表3)をみると、平成23年度の431億円に対してボトムが平成30年度の316億円、その後徐々に増加し、令和3年度は428億円、令和4年度は425億円と大きく変動しています。業種別の増減の寄与度(図表4)は、町内総生産に占める割合が4割強で景気動向等に敏感な「製造業」の影響が大きく、令和元年～3年は災害復旧工事等で「建設業」が

「第六次丸森町総合計画」を策定しました。基本構想の理念(目指すべき将来像)として、「**DESIGN NEW MARUMORI つくろう、あたらしい日常を。**」を掲げ、VUCA^[4]の時代に対応するための手法としてデザイン思考を取り入れ、次の3つの指針(将来像の実現に向けた考え方)を定めました。指針1: 安心して日々を過ごせるあたらしい環境を、つくろう(住みたいが離れざるをえない状況をなくすための方法をあらゆる方向から共に考える。)、指針2: 故郷への誇りを育てるあたらしい習慣を、つくろう(故郷を想ってもらうための習慣をつくるという観点からの取り組みを共に考える。)、指針3: 夢や憧れへ挑戦できるあたらしい機会を、つくろう(どこにいても挑戦できるという可能性を信じる人を増やす機会を共に考える。)。将来像の実現に向けて、3つの指針に基づき、①地域づくり・賑わい、②子育て・教育、③暮らし・生活環境、④健康・福祉、⑤しごと・産業、⑥行政経営分野での基本目標を定め10年間に亘り取り組んでいくこととしています。令和2年3月改訂の「丸森町まち・ひと・しごと創生総合戦略」の人口ビジョンでは、2060年時点の将来人口の目標として1万人を掲げていますが、上記の基本構想では令和17(2035)年度で約8,000人と推計しており、これをベースに新たな計画と目標が定められるものと思われます。

図表2 丸森町の産業別町内総生産額(令和4年度)

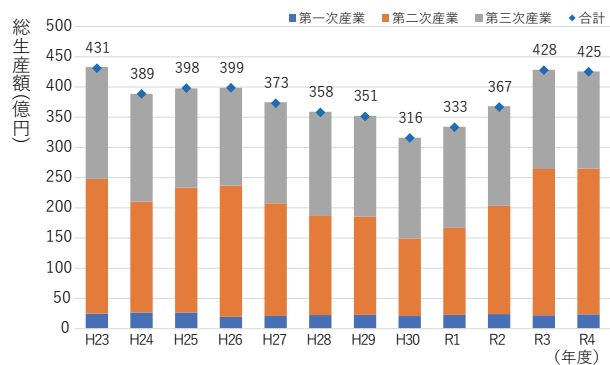
	実額(億円)		構成比(%)		
	丸森町	宮城県	丸森町(a)	宮城県(b)	(a-b)
第一次産業	24	1,392	5.6	1.4	4.1
農業	20	811	4.8	0.8	3.9
林業	3	66	0.8	0.1	0.7
水産業	0	515	0.0	0.5	-0.5
第二次産業	241	20,717	56.7	21.5	35.2
鉱業	5	156	1.2	0.2	1.1
製造業	180	14,749	42.3	15.3	27.0
建設業	56	5,812	13.2	6.0	7.1
第三次産業	161	74,172	37.8	77.1	-39.3
電気・ガス・水道業・廃棄物処理業	5	2,151	1.2	2.2	-1.1
卸売・小売業	14	15,456	3.3	16.1	-12.8
運輸・郵便業	6	4,931	1.4	5.1	-3.7
宿泊・飲食サービス業	2	1,581	0.5	1.6	-1.1
情報通信業	6	2,948	1.4	3.1	-1.6
金融・保険業	3	3,337	0.7	3.5	-2.8
不動産業	37	11,982	8.8	12.5	-3.7
専門・科学技術、業務支援サービス業	8	9,188	1.8	9.6	-7.7
公務	30	5,823	7.0	6.1	0.9
教育	11	4,120	2.7	4.3	-1.6
保健衛生・社会事業	30	8,954	7.2	9.3	-2.2
その他のサービス	8	3,701	1.9	3.8	-2.0
総生産額	425	96,147	100.0	100.0	0.0

資料: 宮城県「宮城県市町村民経済計算」
(注) 税加除等により各業種の計と合計は一致しない

増加しました。

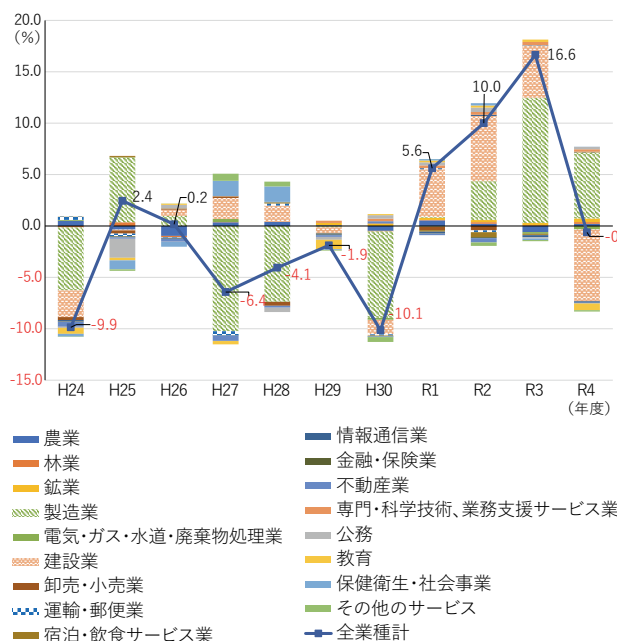
なお、令和4年の製造品等出荷額は388億円、宮城県全体(5兆4,829億円)の0.7%、県内22位となっています(経済構造実態調査(製造等事業所調査))。出荷額の規模に近い自治体としては、美里町(449億円)や利府町(330億円)があげられます。

図表3 丸森町内総生産額の推移



資料：宮城県「宮城県市町村民経済計算」

図表4 丸森町内総生産額の業種別対前年比の推移



資料：宮城県「宮城県市町村民経済計算」

(2) 産業構造 ～ 製造業、建設業、農林業などを中心に稼ぐ ～

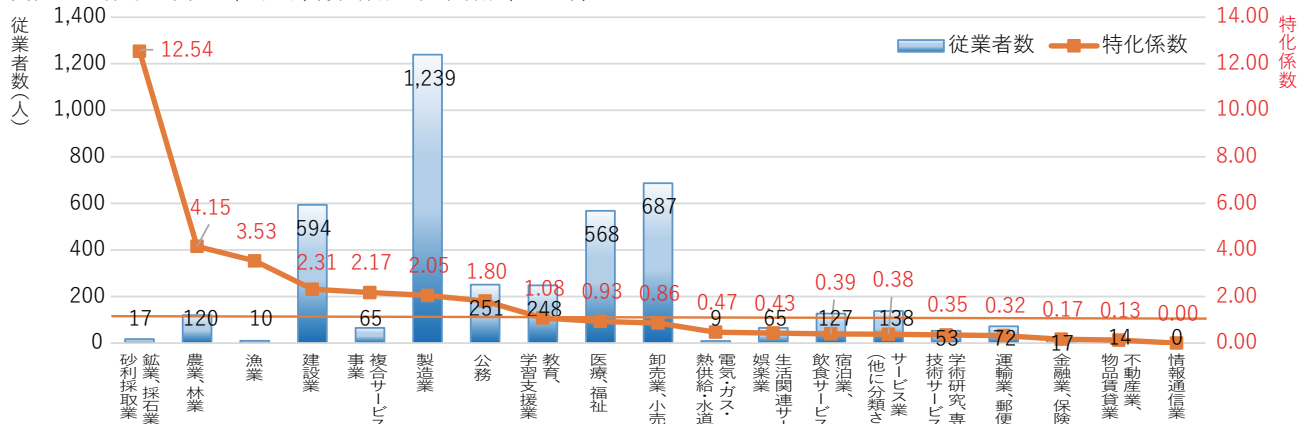
図表5・図表6は、丸森町の産業構造を把握するために従業者数による特化係数^[5]を算出し、産業別の従業者数とともに表示したものです。最も従業者数が多く特化係数が1を超えている業種(大分類)は「製造業」、次いで「建設業」です。図表6は、従業者数が多い「製造業」等について、更に中分類等の業種別内訳を見たものですが、「輸送用機械器具製造業」「金属製品製造業」の従業者数の多さ・特化係数の高さが際立っています。「小売業」「社会保険・社会福祉・介護事業」「地方公務」「教育・学習支援業」も従業者数が200人を超えています。

すなわち丸森町で「稼ぐ力」が大きく、かつ雇用も吸収しているのは「製造業」、次いで「建設業」などであるこ

とが分かります。一方で「生活関連サービス業、娯楽業」「宿泊業、飲食サービス業」「不動産業、物品賃貸業」「学術研究、専門・技術サービス業」「運輸業、郵便業」など、多くの生活系・業務系業種の特化係数は1を大きく下回っており、丸森町の都市・産業機能の多くが隣接する角田市や近隣自治体に依存する状況になっていることを示しています。

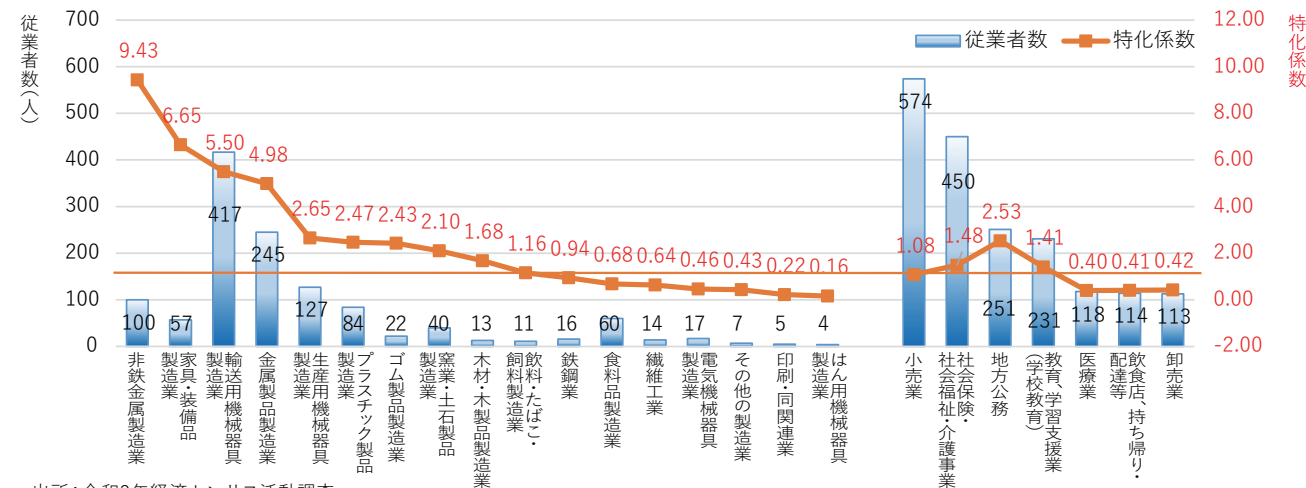
なお、丸森町における「農業、林業」の町内総生産額に占めるシェアは県平均を上回り、従業者数ベースの特化係数(4.15)も高く、町の基幹産業の一角を占めています。個人も含めた農林業経営体数は707(うち農業699)、農業の実人数は1,638人(うち60日以上農業に従

図表5 丸森町の業種別(大分類)特化係数と従業者数(2020年)



出所：令和3年経済センサス活動調査

図表6 丸森町の製造業と主要業種(中分類)の特化係数と従業者数(2020年)



出所：令和3年経済センサス活動調査

事した人数は819名(2020年農業センサス)となっています。令和4年の推計^[6]によれば農業産出額は県内11位となる48億2千万円、このうち72%が畜産(豚、生乳、ブロイラーなど)、米が15%、この他各種野菜(トマト等)、

果実(柿、梅等)ほか様々な品目が産出されており、特産品のころ柿、干し柿、へそ大根、梅干し、えごま油、ジェラートなどに加工されています。今後の更なる特産品開発や観光面などでの可能性も期待されます。

[5]特化係数とは、当該市町村における産業別の生産額や従業者数の割合を全国の同様の割合で除した指数のことです。この指数が1を超える産業は、域内での生産物やサービスの金額や量、従業者数が域外の平均値より多く、域外需要を取り込み域外からお金を「稼ぐ力の強い産業」とみることができます。反対に、指数が1を下回る産業は、域内需要が域外に流出し、域外にお金が増える産業、つまり「稼ぐ力の弱い産業」とみることができます。

[6]農林水産省による令和4年市町村別農業産出額(推計)(農林業センサス結果等を活用した市町村別農業産出額の推計結果)。

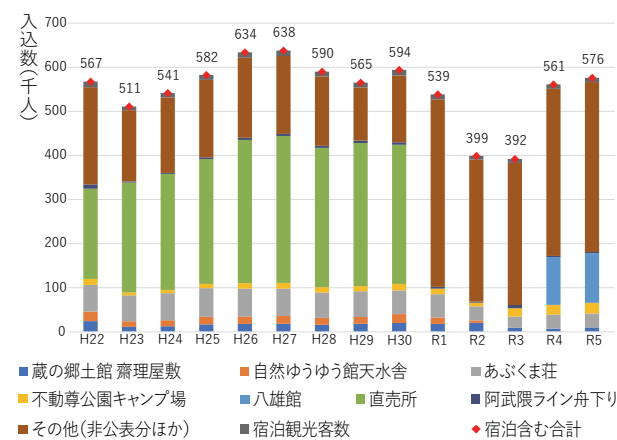
(3) 観光 ～ 「全国丸森いち」や直売所への来場者を町内周遊へ ～

丸森町の観光入込数と宿泊観光客数の推移(図表7)をみると、町内で生産される野菜や特産品などの直売所(八雄館など)や昭和47年から実施されている春の恒例イベント「丸森いち」(例年5月中旬開催)が多くの観光客を集めており、日帰客を中心に令和元年までは概ね年間延50～60万人で推移してきました。その後、令和2～3年に新型コロナによるイベントの中止等が響き、入込数が落込みましたが、感染拡大が落ち着いた令和4年

以降は50万人台を回復しています。一方、「丸森いち」が開催される5月が年間観光入込数の2割程度を占める(図表8)など季節的な変動がやや大きいことや宿泊観光客数が年間1万人前後と少ないことが課題となっています。

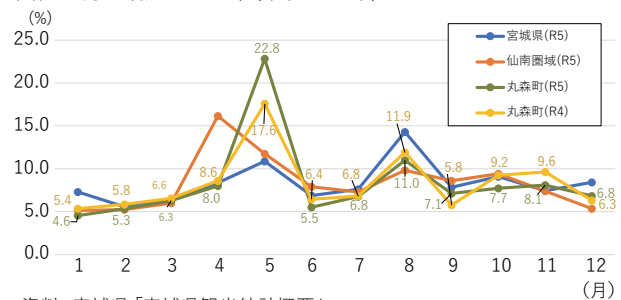
町では、これまでの「丸森町交流人口 70万人計画」を検証・強化し、観光振興による交流・関係人口増を図るため、令和5年3月に「丸森町観光振興計画」を策定し、個性が輝きを放つ「まるっと まるしえ まるもり」を将来像として、①丸森観光のきっかけづくり(ビッグデータやデジタル技術の活用等により観光客の消費行動を分析、ニーズに合わせた観光振興。SNSやマスメディアを通じ

図表7 丸森町の観光客入込数(施設・種類別)と宿泊観光客数の推移



資料：宮城県「宮城県観光統計概要」

図表8 月別観光入込比率(令和4～5年)



資料：宮城県「宮城県観光統計概要」

た積極的な情報発信、新たな層の獲得。)、②丸森の魅力が伝わる観光のコンテンツづくり(齋理屋敷や日本一の数の猫碑の活用、阿武隈川を生かした観光客の誘致、「丸森のアウトドア」のブランディング、農産物のブランド化及び地元飲食店等の魅力再発信により、歴史、自然、農・食、人といった既存観光資源を磨き上げ、満足度の高い新たな観光プロダクトの開発でリピーター『丸森

ファン』を増加。)、③町一体となって取り組む受入体制の充実(町民一人ひとりが「観光は自分たちの生活を支える大切な産業である」という意識付けで観光産業への参画を促し、「郷土愛」を育む学びの機会を提供する等、ハード・ソフト両面から受入体制整備。)の3つの基本戦略で観光入込数を年間80万人、観光消費額を現状の約3倍の80億円とすることを目指しています。



(写真)上左:「阿武隈ライン舟下り」、上中央:「大張沢尻棚田」(出所:丸森町観光物産振興公社HP)
上右:「齋理屋敷」、下左:「あぶくま荘」、下中央:「大内特産品直売所」、下右:「いなか道の駅やしまや」(筆者撮影)

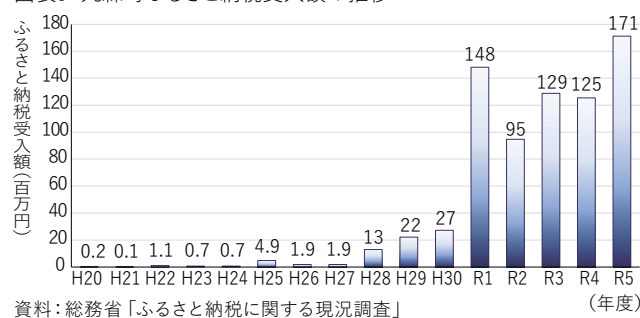
4 ふるさと納税 ～丸森の魅力伝える「丸森ファン」づくりのツール～

丸森町のふるさと納税の受入額(図表9)は、町内で生産される農畜産品によるジェラートなどのスイーツ・菓子類、梅干し、味噌、日本酒、えごま油など食品・飲料などを中心とした特産品による返礼品開発を進め、令和5年度は1億71百万円まで増加しています。今後、一層の受入増を図るには、新たな特産品開発に加えて、観光振興と一体的な宿泊券・利用券・アクティビティ等、幅広い分野の返礼品開発や「丸森ファン」づくりに向けた情報発信が必要と思われます。一方、ふるさと納税の受入額については、第五次丸森町総合計画の将来像「人と地域が輝き 豊かで元

げるまちづくり～」を実現するための諸事業や災害復旧・復興事業など多方面において活用されています。

また、企業版ふるさと納税については、「令和元年東日本台風再生計画」に基づき、復旧・復興に向けた①観光施設等災害復旧事業、②住民コミュニティ施設災害復旧事業、③町営住宅災害復旧・建替事業、④丸森全国キャラバン事業(災害の風評被害払拭と関係人口創出強化)、⑤復興イベント事業(町内イベント開催、全国の支援者へのおもてなしと関係人口拡大)を、更に「丸森町まち・ひと・しごと創生推進計画」に基づく①丸森で活躍する人を育てる事業(教育環境整備で地域の活力を担う人材と組織の育成事業等)、②地域が元気な丸森をつくる事業(農林

図表9 丸森町ふるさと納税受入額の推移



資料:楽天市場 ふるさと納税 丸森町のページ

業振興、観光交流推進、保健・医療の推進、防災まちづくりの拠点づくり等)、③丸森で暮らす人を増やす事業(企業誘致の推進、商業活性化、子育て環境充実、定住促進等)等を行ってきました。今後も、引き続き寄付の受け入れを

募っており、令和5年6月には、企業版ふるさと納税の推進に関する契約を七十七銀行と締結し、民間企業の本制度の活用を促進するとともに、官民連携事業の創出等を通じた地方創生の推進を図ることとしています。

《町民投票で選ばれた丸森町公式キャラクター「ne.ko.ga.mi.(ねこがみ)」》



出所:丸森町HP

日本で一番多く飼われているペットは「猫」ですが、飼育頭数(2024年)は916万頭で増加中と報告^[7]されています。古代エジプトの猫の女神「バステト」など、猫は世界中で神様としても扱われており、日本では稲や養蚕、漁業などの豊穡の神として、また、ゲームやアニメのキャラクターとしても猫神が登場します。

丸森町では、かつて養蚕が盛んに行われていたため、多くの農家は、大切な繭と蚕をネズミから守る猫を飼っていました。家族の一員である猫を大切に弔う供養碑として、また繭の豊穡を祈念する象徴として、猫の姿が刻まれた石碑が町内に80基以上あり、その数は全国一と言われています。丸森の人々は「猫神さま」と呼び、昨年4月には、「ねこがみとうぐいすP」が町民投票を経て丸森町の公式キャラクターに採用されました。町内では猫神さまをめぐるツアーが行われ、「まるもりのネコみやげ」として、お菓子やお土産品も次々と生まれ、丸森町は、猫好きが集まる聖地となっています。



丸森町内の猫神様たち:左から瑞雲寺、愛敬院、西円寺猫塚群(4体)、細内観音堂(筆者撮影)

[7]一般社団法人ペットフード協会が毎年公表する「全国犬猫飼育実態調査」による2024年推計値。犬の飼育頭数は約680万頭で減少傾向。

5 おわりに ～DESIGN NEW MARUMORI～

第六次丸森町総合計画の策定に当たり、町が令和5年12月に行った住民アンケートでは、「たいへん住みやすい・どちらかと言えば住みやすい」との回答が18歳以上の町民で55.1%、中高生では72.7%、「いつまでも住み続けたい・当分住み続けたい」との回答が町民で62.7%、中高生45.9%となっています。町民、中高生とも「公共交通(鉄道・バス)の利便性」に関して、加えて町民では「道路」に関して満足度が低い一方、「自然や木々の緑の豊かさ」などの社会生活環境に関しては町民・中高生とも概ね高い結果となっています。なお、「保健・福祉・医療」や「産業」に関しては、町民と中高生の意見が分かれる結果(町民の満足度が低い)となっています。「5～10年後の不安」については、町民・中高生とも主に

「少子高齢化」を挙げています。

このような町民の声に応じて、町では、第五次丸森町総合計画の取り組みを基礎として、第六次計画の新たな理念(目指すべき将来像)「**DESIGN NEW MARUMORI つくろう、あたらしい日常を。**」で掲げた3つの指針(①安心して日々を過ごせるあたらしい環境を、つくろう、②故郷への誇りを育てるあたらしい習慣を、つくろう、③夢や憧れへ挑戦できるあたらしい機会を、つくろう)を策定しました。町内外の若者から高齢者までが参画して、「つくろう!」を合言葉に、様々なまちづくりの活動が今後も進められていくことが期待されます。

(文責 七十七リサーチ&コンサルティング 調査研究部 飯村 豊)